2025 春 システムアーキテクト試験 全国統一公開模試 講評と採点基準

2025 年 3 月 25 日 (株)アイテック IT 人材教育研究部

■ 全体講評

今回の午後Ⅰ記述式試験（以下，午後Ⅰという）では，仮採点時点で，本試験における合否の判定基準である，“満点の 6 割”の点数を獲得した受験者が 5 割程度でした。できるだけ本試験と同レベルの採点基準を目指したいですが，本試験よりも採点基準が厳しくなったかもしれません。

厳しい採点基準となってしまったと考える根拠の一つ目は本試験の具体的な採点基準は発表されていないことです。二つ目は次のとおりです。

本試験の午後Ⅰでは，60 点前後に得点が集中し，そのため 1 点足りなくて不合格になるケースがあります。そこで受験者の皆さんがそのような結果にならないように，解答の趣旨は合っていても得点できない解答を書かないように厳しく採点しました。例えば，“設問にある条件など，全て満たしているか”，“適切なキーワードが含まれているか”という観点で採点しました。

午後Ⅱ論述式試験（以下，午後Ⅱという）では，例えば，趣旨に沿って論述しているか，専門家としての考えをアピールしているか，という観点で採点しています。本試験でもそのように採点されることが予想できます。“～した”などの実施内容の記述に終始せずに，“専門家の考え”や，“工夫した点”をアピールするために論文設計するという考え方を徹底して，論述演習するとよいでしょう。

2 時間で書くことが難しいと推測できる字数の論文が散見されました。個人差がありますが，設問イでは，多くても 1,200 字程度に抑えておいた方がよいかもしれません。

なお，**禁則処理ができていない，敬語を使う，など基本的なことが，できていない論文が散見**されました。

これから説明する解答作成のノウハウを確認して得点力をアップし，確実な合格を目指しましょう。

本試験では午後Ⅰよりも午後Ⅱの方が問題の選択漏れが多くなる傾向があります。本試験では，午後Ⅱの**解答用紙の提出時，問題選択漏れをしていないか，必ず確認する**ようにしましょう。**問題の選択漏れは決して他人事ではありません。**

■午後Ⅰ講評

午後Ⅰにおいて突破レベルをクリアするために留意すべき点を，問題別に挙げておきます。具体的には，各問題の講評を参照してください。

【問 1 医療情報システムの再構築】

(1)設問文で特に指定のない場合は，できるだけ問題文にあるキーワードを使って解答する。

(2)過去数年の本試験の問題を基に，3 問とも問題の概要を図表などで確認した上で問題を選択する旨を検討する。

【問 2 業務及びシステム移行】

(1)設問で問われている内容と解答の語尾を整合させる。

(2)設問の解答条件を全て満たす解答を作成する。

(3)解答は問題文の記述の粒度に合わせて作成する。

【問 3 原稿依頼管理システムの導入】

(1)設問条件を全て満たす解答を作成する。

(2)問題文中の表記を正確に解答に反映する。

午後Ⅰを解く上での一般的な留意点を，次に挙げておきます。

(1)記述式問題では実質ページ数に留意する

問題の量で問題を選択する場合，ページ数や設問数だけで，問題を選択するのではなく，**表などに小さい字で書かれていないか**についてもチェックしましょう。

(2)設問にある解答条件を全て満たす解答を作成する

特に“～の観点から”という記述に着目してください。これは，考えられる複数の解答から，解答を絞り込むための条件です。必ず，この条件を満たすようにしましょう。

(3)解答済みの設問を見直し，難易度の低い設問を確実に得点する

難易度の高い設問を解けることも重要ですが，難易度の低い設問を確実に得点して，得点を積み重ねることが合格には不可欠です。したがって，時間が余ったら，既に解けていると思った設問の解答についても，全ての解答条件を満たしているか，という観点で確認するようにしましょう。

■午後Ⅱ講評

論述式問題では，読みにくい，基本的な部分ができていない，あるいは，論文としての体裁が整っていない解答がありました。次に留意点を，優先順に挙げておきます。

(1)問題文の趣旨に沿って論述する

設問文だけを見て論述しないようにしてください。趣旨にある“～必要である”，“～重要となる”などの語尾の文章は特に留意しましょう。

(2)詳細を説明する場合は先に概要を述べる

急に詳細な内容を説明されても，採点者はイメージできず，結果的に読みにくい論文と評価される可能性が高まります。詳細を論じるときは，概要を説明してから“具体的には～”などと展開するとよいでしょう。

(3)採点者が採点しやすい論文を作成する

設問で問われている内容，すなわち，採点者が知りたい内容がどこに書いてあるか分からない論文では，高得点は望めません。できるだけ，設問文にある言葉だけを使って，設問文に沿った章立てをすることを薦めます。もちろん例外もありです。

(4)質問事項の記入漏れをなくす

解答用紙の先頭にある質問も採点対象です。論述後に書こうと思っている人に記入漏れが多いようです。**遅くとも論文設計が終わったら，質問書へ記入する**ようにするとよいでしょう。問題冊子の記入方法には“該当する番号又は記号を○印で囲み”とあるので，特に“ア”や“イ”などの**記号の囲み漏れに留意する**ようにしてください。質問事項は，システムアーキテクトとして標準化された表記方法で設計書などのドキュメントを作成できるかについて採点者が評価すると考えてください。

試験開始前に見ても支障がないことを確認した上で，**試験開始前に解答用紙を開いて質問事項を確認しておく**とよいでしょう。そのとき，設問イや設問ウの論述開始箇所も確認しておきましょう。

(5)計画やシステムの名称は例に倣って書く

質問事項において**最初に問われている 30 字が計画やシステムの名称になっていない**ものが多いです。計画やシステムの名称を，例に倣って修飾すること，例と同じ語尾になることも大切です。本番の試験でも，質問事項は，漏れなく回答するようにしましょう。

(6)論文は 1 枚ずつ書く

書いた文字が重なり合った状態で，その上から字を書くと，双方のページに字が写るので，論文は 1 枚ずつ書くようにしましょう。

(7)事例の詳細を書く

一般論を書いていては，合格は難しいです。問題にもよりますが，“一般的には～”などと書かないようにしましょう。

(8)論文の体裁を整える

採点には大学の教員も担当することもあります。細かい点ですが，できれば，次の点に留意してください。

(a)**禁則処理をする**

(b)箇条書で，節を書き始めない，書き終えない

(c)**“いただく”，“頂く”，“お客様(固有名詞を除く)”などの敬語は使わない**

(d)“思う”は使わない

(e)括弧は，“(以下，～という)”以外では使わない

(f)問題にある漢字をひらがなや誤った字で書かない

(g)略字を書かない

(h)“である”調に統一する

(i)誤字に留意する。例えば，“購買”を“購売”，“実績”を“実積”，“認証”を“認承”などと書かない

(j)箇条書のタイトル以外で，体言止めを使わない

(k)500 字を超える**長い段落は読みにくい**ので，適切な長さで段落を構成する

(l)段落の書き始めは字下げをする

(m)1 段落 1 文章の段落を連続しない

(n)空白行を設けない。ただし，設問間を除く

以上，細かいですが，合格のためです。できるようにしておきましょう。

次に午後Ⅰ，午後Ⅱの詳細な講評を説明します。

＜午後Ⅰ＞

【問 1　医療情報システムの再構築】

【講評】

設問文で特に指定のない場合は，できるだけ問題文にあるキーワードを使って解答するようにしましょう。具体的には，［設問 1］の空欄 e が該当します。［診療業務の概要］にある(1)の“N 病院は曜日別，診療科別，時間帯別”と記述から，“曜日”という解答を導きます。

問 1 の選択率が 9 割前後で，問 3 の選択率が 1 割前後でした。受験者の皆さん，各自，得手不得手の問題があると推測できますが，**過去数年の本試験の問題を基に，3 問とも問題の概要を図表などで確認した上で問題を選択する旨を検討する**とよいでしょう。もしかしたら，あなたにとっては，本試験における問 1 の難易度が高い傾向があるかもしれません。

［設問 1］

正答率の高い設問です。空欄 f と空欄 g は順不同として採点しました。

［設問 2］

(1) “予約枠”を必須としました。

(2) “問診データを電子カルテに直接取り込むことができるから”という解答例については，“問診”と“電子カルテ”を必須としました。

“問診内容を診療科別に自由に作成できるから”という解答例については，“問診”を必須としました。

(3) “Web 予約で入力した診察券番号に誤りがある場合があるから”という解答例については，“診察券番号”を必須としました。

“同じ患者で Web 問診結果が複数登録されている場合があるから”という解答例については，“問診”を必須としました。

(4) “承認”を必須としました。

(5) 厳しいですが，完答のみを正解としました。

(6) 低い正答率でした。

【採点基準】

［設問 1］

空欄 f と空欄 g は順不同とし，解答例と同じものに対

し各 2 点，その他は基本的に 0 点。
［設問 2］
(1) “予約枠”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。
(2) “問診データを電子カルテに直接取り込むことができるから”という解答例については，“問診”と“電子カルテ”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。その他は基本的に 0 点。
“問診内容を診療科別に自由に作成できるから”という解答例については，“問診”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。その他は基本的に 0 点。
(3) “Web 予約で入力した診察券番号に誤りがある場合があるから”という解答例については，“診察券番号”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。その他は基本的に 0 点。
“同じ患者で Web 問診結果が複数登録されている場合があるから”という解答例については，“問診”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。その他は基本的に 0 点。
(4) “承認”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は基本的に 0 点。
(5) 解答例と同じものに対し 4 点，その他は基本的に 0 点。
(6) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は基本的に 0 点。

【問 2 業務及びシステム移行】

【講評】

設問で問われている内容と解答の語尾を整合させるようにしましょう。具体的には，［設問 1］の“業務”が該当します。“～業務”というように設問と解答の語尾をそろえましょう。

設問の解答条件を全て満たす解答を作成するようにしましょう。具体的には，［設問 3］の“業務名を含めて”が該当します。趣旨が合っていても設問の条件を満たさない解答は，部分点なしの不正解としました。

締めの期間については，高頻度で問われるポイントなので，**締めについて前月の締日の翌日から今月の締日までが通常の集計期間であることを確認する**ようにしてください。具体的には，［設問 4］(1)において，開始が“前月締日から”や“前月 10 日から”となっている解答が散見されました。

解答は問題文の記述の粒度に合わせて作成するようにしましょう。例えば，［設問 4］(1)において，“直近の締日の翌日”や“前月の締日の翌日”などという解答が散見されました。厳しいですが，これらの解答は不正解としました。解答解説にあるように問題文には”月内で一番早い締日が 10 日締め”と書かれている点に着目して具体的に解答を作成する必要があります。

［設問 1］

正答率の高い設問です。“業務”について問われているにもかかわらず，“在庫管理情報”という解答が散見されました。厳しいですが，不正解としました。

［設問 2］

解答解説のとおり“新システムへの移行要件を踏まえ”という記述にしたがって，新システムの移行要件の中から解答を導く記述を絞り込む必要があります。したがって，手数料計算に関する解答は移行要件にないので不正解としました。

設問文では“全トランザクションデータ”とあります。これを理由に，厳しいですが，“移行期間中も，全社分の管理帳票を出力できるようにする”ことを根拠に導いた解答だけを正解としました。

［設問 3］

“在庫管理業務”を必須とし，“在庫管理業務”を含まない解答は厳しいですが不正解としました。

［設問 4］

(1) 厳しいですが，“11 日”という記述のない解答は不正解としました。
(2) 正答率の低い設問です。解答解説に書かれているとおり，設問文にある“全営業所で実施すべき”という設問の記述に着目すると，解答が絞られてくると考えます。解答を導くための記述としては，サービス開始時点から全営業所において新システムの注文管理システムを使うこと，新システムでは Web ブラウザを使うことがあります。厳しいですが“注文管理機能”を必須としました。

【採点基準】

［設問 1］

“情報”については解答例と同じものに対し各 5 点，その他は基本的に 0 点。“業務”については解答例と同じものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。

［設問 2］

“全社分”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点，その他は基本的に 0 点。

［設問 3］

“在庫管理機能”を必須とし解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点，その他は基本的に 0 点。

［設問 3］

(1) “11 日”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 9 点，その他は基本的に 0 点。
(2) “注文管理機能”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 9 点。その他は基本的に 0 点。

【問 3 原稿依頼管理システムの導入】

【講評】

設問条件を全て満たす解答を作成するようにしましょう。具体的には，［設問 2］(4)の設問文にある“契約の観点から”という設問条件が該当します。“原稿依頼するライターがいなくなったケース”だけでは，解答は設問条件を満たしていないと判断し，不正解としました。

問題文中の表記を正確に解答に反映するようにしましょう。具体的には，［設問 3］(1)において，問題文中では“打合せ会議”ですが，“打ち合わせ会議”などと表記している解答が散見されました。採点者から，技術者として標準化したドキュメントの作成能力が低い，と判断される可能性もあるので注意しましょう。

ケアレスミスに注意するようにしましょう。具体的には，［設問 3］(3)において，正解は“レビュー担当者コード”ですが，“担当者コード”や“レビュー担当者”という解答が散見されました。設問文にある“属性を表 1 から答えよ”という解答条件を見逃さないようにしましょう。

［設問 1］

正答率の高い設問です。

［設問 2］

(1)正答率の高い設問です。

(2)空欄 a については高い正答率です。値については低い正答率です。

(3)正答率の低い設問です。厳しいですが“品質上の問題”を必須としました。

(4)“契約の観点から”という設問条件を満たしていない解答については，厳しいですが，不正解とし，“基本契約”を必須としました。

［設問 3］

(1)完答という採点基準があるためか，正答率の低い設問です。

(2)“ライター”を必須としました。正答率の高い設問です。

(3)解答解説の【解答例】にある“業務上の理由：社内秘であるレビュー担当者はライターには開示しないから”を，“業務上の理由：社外秘であるレビュー担当者はライターには開示しないから”に訂正させてください。【解説】の最後の文章も同様です。

業務上の理由の正答率は高いですが，属性名の正答率が低いため，完答という採点基準に従い，結果として正答率の低い設問です。

【採点基準】

［設問 1］

“原稿作成ツール”又は“校正機能”の片方を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点，その他は基本的に 0 点。

［設問 2］

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。

(2) 解答例と同じものに対し各 6 点，その他は基本的に 0 点。

(3) “品質上の問題”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。

(4) “基本契約”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。

［設問 3］

(1) 解答例と同じものに対し 5 点，その他は基本的に 0 点。

(2) “ライター”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点，その他は基本的に 0 点。

(3) 属性名については，解答例と同じ，業務上の理由については，“社外秘”を必須とし，同様の趣旨が適切に指摘されている，この二つが適切なものに対し 5 点，その他は基本的に 0 点。

＜午後Ⅱ＞

【問1 業務課題の変更に応じたシステム改修】

【講評】

午後Ⅱでは，趣旨に沿って書くことが前提で評価されます。そこで趣旨を読むと“既存システムの部品や機能の活用を工夫して，開発の範囲や程度を最小限にとどめ，開発の工期や費用を抑制して適切に改修していく必要がある”が設問イにかかわる記述，“他のシステムへの影響を最小限に抑制し，改修に伴う付加的な改修作業や追加テストを削減していくことも重要である”が，設問ウにかかわる記述であることが分かります。

設問アでは業務課題の変更について説明してから，機能の追加変更内容を論じると，他者との差別化ができると考えるとよいでしょう。

設問イでは，論点を絞り込んだ上で，工夫した点を論じるとよいでしょう。なぜならば，対応の難しさなど，工夫する必要性を説明してから工夫した点を述べる場合，時間の制限などから，論点を絞り込む必要があるからです。

設問ウでは“他のシステムへの影響はどのようなものであったか”と問われているので，“他のシステム”と“影響”が不鮮明な論文が散見されました。したがって，この二つを鮮明に示すと他の解答との差別化ができると考えます。

【問2 セキュリティ・バイ・デザインを意識した設計・開発活動】

【講評】

1割前後の選択率の問題です。例えば設問イにおいて，実施工程，具体的な実践内容，脅威に対する期待効果，セキュリティ以外の側面に与えた影響，という具体的な項目で問う設問構成になっているため，論文設計が難しい問題になっていたのかもしれません。

情報セキュリティ対策について論文を書けるように準備しておくとよいでしょう。昨今，情報システムにおいて“セキュリティ対策は不可欠”といっても過言ではないからです。例えば，“コールセンターに勤務するオペレーターのライフスタイルの多様化に対応”という業務課題の変更に応じて，リモートワークのために，コールセンターシステムにリモート機能を付加するなどの事例では，なりすましという脅威にかかわる情報セキュリティ対策のネタで論文が書けるかもしれません。

設問アでは脅威とセキュリティ要件が鮮明である必要があります。ぜい弱性と脅威を書き分けられるようにしておきましょう。

設問イでは，趣旨に“考えに基づいて”とあるので，専門家の考えをアピールすることが重要です。設問イの前半だけで考えをアピールしている論文が散見されます。採点者は設問イの論述を読んだ後に仮採点をすると推測できます。そのため，設問イの後半の具体的な施策を論じる際に専門家の考えをアピールすると，他の解答者との差別化ができると考えます。

設問ウでは，趣旨に“低コストで確保することに寄与する”とあるので，実際に得られた成果を論述する際に，コスト面からも論じると他の解答との差別化ができると考えます。

＜合格に向けて＞

自分の改善すべき点を確認して，合格を決めましょう。次のような改善策があります。参考にしてください。

［午前Ⅰ・Ⅱ多肢選択式問題］

学習方法の基本は，過去問題を解き，解答解説を含めてしっかりと勉強することです。ただし，一般的に同じ試験区分，この場合はシステムアーキテクト試験，からの過去問題の出題率は低下する傾向があります。他の試験区分の過去問題も学習対象としておくとよいかもしれません。なお，問題演習において分からない点はテキスト学習でカバーするとよいでしょう。

［午後Ⅰ］

過去問題の演習を中心に学習を行い，解答については，本試験と同様に鉛筆で書くようにしましょう。

システムアーキテクトを簡潔に表現すると，対象業務の特性に合わせてシステムを構築する人です。したがって，問題文を読んで業務特性にかかわる記述がある場合は，そこをチェックしておくとよいでしょう。

IPAが発表した本試験の採点講評で“高い正答率”とある設問を解けなかった場合は，導いた解答と正解例のギャップをチェックして，それらに違いが生じた原因を簡単に分析してもよいでしょう。

記述式問題では，設問の条件を全て満たす解答を作成することが重要です。**解答欄に記入する前にもう一度，設問の解答条件をチェック**してみましょう。

もし，本試験において時間が余ったら，解けていない設問の解答を考えることは重要ですが，解けたと思っている設問の解答を見直すことも同じように重要です。

［午後Ⅱ論述式問題］

IPAが発表している講評を確認しましょう。最新の令和6年午後Ⅱでは，“問題文に記載してあるプロセスや観点などを抜き出し，一般論と組み合わせただけの表面的な論述が見受けられた”旨が記載されています。このような評価の論文を書かないように，“具体的には～”などと展開して事例の詳細をしっかりと論文に盛り込むようにします。

重要なので何度も書きます。問題文の趣旨には“考えに基づいて”とあります。したがって，**合格するためには少なくとも専門家としての考えを採点者にアピールする必要がある**と考えてよいでしょう。

公開模擬試験では，“また，～した”などと続けて書くだけで専門家としての“考え”をアピールしていない論文や，語尾を“～した”から“～という工夫した”などと，語尾だけを変えた論文が散見されました。前者については，“～と考え”などと展開して専門家の考えを示してから施策を論じる，後者については，工夫をアピールするためには，工夫する必要性を採点者に示す必要があります。例えば困難な状況を説明してから施策を論じる展開などが効果的です。

経験則ですが，自宅において3時間ほどで書ければ，本試験において2時間以内で書ける可能性は高くなります。論文練習を含めて本試験では，書き終わったら必ず解答を見直すようにしてください。

本試験では，論述が終了した受験者が残り時間を無駄に使っている状況が散見されます。**“自分が書いた解答を見直す”**ことは，“見直したらケアレスミスが見つかった”など，他の受験者との競争優位な点になり得ます。時間が許す限り，見直しを実行しましょう。

－以上－